若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ　議論のまとめ（最終報告）　概要

○　若い世代が描くライフデザインや出会いについて、若者自身の認識や意見を把握し、希望の実現を阻む課題等を明らかにするため、大臣主宰の下、若者と有識者からなるワーキンググループ(WG)を開催。［松田茂樹 中京大学教授等の有識者５名 ＋ 大学生・社会人等の20代若者７名で構成。］

○　令和６年７月以降８回に渡り、①結婚をめぐる現状や課題、②Z世代を始めとする若者の価値観、③ライフデザイン支援、④官民の出会い支援等につき議論（特に第５回以降はライフデザイン支援の具体的な在り方について議論）し、最終報告として取りまとめ。※以下は第５回以降の議論の主な要点。

「こども未来戦略」等に基づく**若い世代の所得を増やすための取組や共働き・共育ての推進等を着実に実行していくことは大前提**とした上で、以下の意見等があった。

【ライフデザイン支援等の視点】

○ **ライフデザイン支援**に当たっては、結婚するかしないかは自由であり、**選択肢として前向きにとらえたり、希望を叶えたりするための取組**であることを改めて確認したい。

○ 多様性や個性を尊重しようという世の中において、**多様性があるからこそ混乱し、情報も多く、どう選択していけばよいか分からないという面もある**のではないか。周囲からの影響を受ける中で、自分で選択することは勇気がいるものであり、**若者の選択に寄り添っていく工夫が必要**。

○ **親の時代とは異なる価値観等の中にあっても、どのようにキャリアを設計していくか、こどもを育てていくかがイメージしやすくなるとよい**。様々な子育て支援、両立支援の制度が整備されているが、それらを前提に**一人一人の生活実感に落としていくことが必要**。

○ **女性の家事・育児負担が大きく、働きにくさや生きにくさを感じている**と考えられる一方で、**若い男性の生きにくさにも目を向けていく必要がある**のではないか。

○ 未婚の若者の６割が「自分自身に満足している」かどうかについて「（あまり）そう思わない」と回答している。ライフデザインを考えることは、単に自分の将来を考えるだけではなく、**自己肯定感が生まれる、自分自身が大切にされている、意思決定が尊重されるといった「こどもの権利」に気づき、考えることにもつながる**のではないか。

○ **信頼のおける人間関係の中で、将来について話し合う機会をつくることも重要**。ライフデザイン支援の中で対話の場を設ける際には、自分の意見を押し付けるのではなく、お互いの考えを尊重し、寄り添える場であるべきである。

○ **ライフデザインを考える上での価値観は人生の様々段階で変わってゆくもの**。ライフデザインをいわば書き換えていく機会があることも重要。

○ **企業や社会が多様性に取り組んでいる意図が分かりにくい**。多様性によりどう発展したいのか、具体的な施策や経営、雇用等につなげていってほしい。

【ライフデザイン支援、出会い支援等の取組の具体化に向けて】

○ **学校での取組拡大**に向けて、地域の専門家等の協力を得たり、地域学校協働活動の中で取り組むなどし、先生方の理解を得つつ、**地域との連携を進める**ことが重要。そのためにも若い世代の**ライフデザインを応援しようという気運の醸成が必要**。

○ **大学等への働きかけも重要**。授業の中に取り込む、就職支援の一環で行うなど、自治体との連携を含め、上手に取り組んでいる事例を発信していくことにより、取組を広げていく方法もあるのではないか。

○ **企業等**に向けて取組を拡大するためには、**経営層や管理職に**その重要性を理解してもらうことが重要。その際、セミナー等の参加者の意識変容、満足度やエンゲージメントの向上に関するメリット、他の企業等の取組例も伝えていくことが重要。

○ 先行自治体の例も参考に、乳幼児触れ合い体験、キャリア形成、プレコンセプションケア、ワークライフバランスなどを**各年代に応じて適切に取り入れる**ことが重要。

○ **ひとり親家庭で育つこどもや非正規雇用の方、困難な状況にあるこども・若者もライフデザインを描ける**よう、関係の制度等を含め、丁寧に情報を伝えていくことが重要。

○ 自分が知りたい情報は自分で調べる。流れてくる情報に手を止めるかどうかは、**発信者に共感できるかどうか**、ショートドラマや漫画仕立てなど**見やすい作り方の工夫がなされているか。そうした若者の視点をいかし、SNS等を活用した情報発信が重要**。

○ 出会いや交際に対して、自信がない、何をすればよいか分からないといった若者もいる。出会いの支援においては、**若者が独身でいる理由や相手を見つける行動をしていない理由が様々であることを踏まえた対応**が必要。

○ 出会いの支援に当たっては、福利厚生等を通じて**若い世代の出会い・結婚を応援する企業等と連携・協力**を得ていくことも方法の一つ。

○ ライフデザイン支援は息の長い取組が必要。**若い世代の多様な意見も聴きつつ、審議会等の場で効果検証等も行いながら、取組の改善を継続していくことが重要**。

第１回から第４回までの議論の取りまとめ（中間報告）　概要

若い世代の現状認識や価値観に関する主な意見等

○　**社会的に正解とされる生き方が消失した**中で、今の若い世代は、「他人や社会にとっての正解」よりも**「自分自身が納得できているか（自分なりの納得解）」を大切にする**傾向がある。

○　自分たちが生きている今の時代は、**親の世代が若い頃を過ごした時代と、社会の価値観や選択肢の幅が全く異なっている**と感じている。こうした中で、今の若い世代には、自分の親とは異なるバックグラウンドを持つ、**近い世代の様々なロールモデルを知り、自身の将来についての「解像度」を高めたいというニーズがある**。

○　結婚やこどもをもつことは、「当たり前のこと」ではなく、**自分にとっての幸せを実現する手段の１つ**に過ぎず、本人が希望する場合に選択するもの。

○　経済的に自立して生きていけると感じている女性も増えており、女性は経済的に男性を頼って結婚をするものという見方には共感しにくい。**子育て期も夫婦ともに働き続けることを理想の夫婦像とする若者が増えている**。

○　**核家族化や地域コミュニティの希薄化の影響**で、乳幼児の世話をしたり触れ合ったりした機会がないまま大人になる人も少なくない。乳幼児の世話をした経験、妊孕力に関する知識を得たとき、ライフプランについて考える授業を受けたときなどは、こどもや妊娠・出産について考えるようになるきっかけとなりうる。

○　20代前半の新卒男女が就職を機に地方から都市部へ大量に流出する現象など、**地方における少子化の実態を捉え、効果ある取組につなげる上で、地域間の人流を始め、各地域の特性を考慮することが重要**。

今後の取組に関する主な意見等

「こども未来戦略」等に基づき取り組むこととしている、**若い世代の所得を増やすための取組や共働き・共育ての推進等を着実に実行していくことは大前提**とした上で、今後の取組について以下の意見等があった。

（１）ライフデザイン支援について

○　学校、地方自治体、企業での取組を促し、**ライフデザイン支援の裾野を広げていくこと**が重要。

○　ライフデザイン支援では、**将来の選択に関わる事実の知識と、実際に体験して得られる実感**の両方が重要。**地域性も考慮する**ことが必要。

○　全ての年代に共通の１つのコンテンツを提供するのではなく、**年代に応じて、必要な内容を適切な方法で提供すること**が重要。

（２）マッチングアプリ・結婚相談所について

○　マッチングアプリについては、**利用者が安心して安全に利用できるよう**、第三者認証の仕組みや安全な利用方法等に関し、**周知啓発を図る**ことが重要。

（３）行政が提供する出会い・結婚支援サービスについて

○　行政が提供する出会い・結婚支援の**課題は、その認知度の低さ**。

○　地域の結婚支援の効果を高めるため、国が支援フェーズごと効果検証の枠組みを構築し、**優良事例の横展開**に取り組むことが必要。**マッチングシステムの都道府県間の連携方策**の検討を進めていくこと等も必要。

○　**サービス向上のために官民の連携協力**もさらに進めていくべき。

（４）若い世代による情報発信等について

○　**若い世代自身の意見・アイデアや協力を活かして、**公的機関が発信する情報を敬遠しがちな若い世代にも伝わる**情報発信の手法やコンテンツについて様々な工夫や仕掛けを講じる**ことが必要。

○　特定のメディア媒体で一方的に発信するよりも、SNSでの発信や広告に加え、友達同士の口コミなど、**様々な情報流通経路を通して多面的に情報が届くようにすること**が効果的。